

スペシャリストの素顔

医療現場ではさまざまな職種の職員が働いており、リハビリテーションでは理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が働いています。その中から、スペシャリストとして作業療法士をご紹介します。

■作業療法士



肥前精神医療センター
塚原 宏恵 さん
作業療法士

国家資格による作業療法を担う専門職。基本動作の回復を担う理学療法士に対し、食事・料理・スポーツなどにより応用動作と社会適応するための能力回復を担う。病院以外に障がい者福祉施設や児童養護施設などでも活躍している。

作業療法士 (OT) の特徴は？

リハビリテーション（以下、リハビリ）の専門職には理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT)、言語聴覚士 (ST) があります。理学療法士は基本的な身体機能の回復（起きる・歩くなど）のためのリハビリ支援が中心なのに対し、作業療法士は社会への適応を目指した身体と心の両方のリハビリ支援を行います。



ごく簡単にいうと、体全体での動きの回復を目指すのが理学療法士で、作業療法士は例えば衣服の着脱・調理・園芸などといった手先の動きや日常生活に近い行為のリハビリを行うことで、患者さんの日常生活や社会復帰につなげ、あわせて心身の両面を支えることをテーマとしています。

精神疾患でのリハビリとは？

作業療法士は急性期では日常生活や社会復帰を目指して、手先などの機能の回復を主な目的としてリハビリを行います。精神的な病気の場合は低下した意欲や自発性に焦点を当て、それを向上させることに力点を置いて、よりその人らしい生活に戻れるようお手伝いします。

急性期における
病気や事故により
体の障がいが生じ
てしまった患者さ
んであれば、「仕事
ができるようにな
りたい」といった



意欲を持ってリハビリに取り組むことが大半で
すが、精神的な病気の場合はむしろ体の機能が
制限されていることは少なく、体の機能回復よ
りも脳に与える影響を考えた作業が中心になり
ます。調理・園芸・創作活動などの作業がその
人の生活の中でどんな意味を持つかを考え、患
者さん本人はもちろんご家族にもリサーチして、
興味があること、好きなことから作業を選ぶの
です。精神的な安定を目指し、本人が楽しめて
達成感による意欲や自主性を向上させることが
目的だからです。

作業療法士に求められる役割は？

作業療法士も他のリハビリスタッフ（理学療
法士や言語聴覚士）や医師・看護師などと連携
して患者さんを支えるチームの一員です。特に
精神的な病気の場合は人との関わりが苦手な患
者さんが多く、患者さんが少しでも馴染みのあ
るスタッフと一緒にリハビリを行ったり、作業
が上手くできた時は看護師に伝えて患者さんを
誉めてもらったりするなど、精神的な安定につ
ながるようチーム連携が欠かせません。



また、NHO では民間の病院などとは異なり、
セーフティネット医療や地域医療（P09～12 参
照）などカバーしている領域が広いので、作業
療法士にもさまざまな配属先に対応できる臨機
応変さと能力が求められます。この点で作業療
法士は、スペシャリストと同時にジェネラリス
ト（広範囲な知識を持つ人）の側面も持ってい
ます。